

## 南洲遺訓（一部）

一．道は天地自然のもの、人は之を行ふものなれば、天を敬するを目的とす。天は人も我も同一に愛し給ふ故、我を愛する心を以て、人を愛するなり。

一．人を相手にせず、天を相手にすべし。天を相手にして、己を盡し、人を咎めず、我が誠の足らざる所を尋ぬ可し。

一．己を愛するは宜しからざる事の第一なり。修業の出来ざるも、事の成らざるも、過を改むる事の出来ざるも、功に衿り驕慢の生ずるも、皆な自ら愛するが為めなれば、決して己を愛せざるものなり。

一．事に當り、思慮の乏しきを憂ふること勿れ。凡そ思慮は平生黙坐静思の際に於てす可し。有事の時に至り、十に八九は履行せらるるものなり。事に當り卒爾に思慮することは、譬へば臥床夢寐の中、奇策妙案を得るが如く、翌朝早起の時に至れば、無用の妄想に類すること多し。

一．知と能は、天然固有のものなれば『無知之知 不慮而知 無能之能 不學而能』と。心明らかなれば知又明らかなる所に發すべし。